

常任委員会の審査から

総務企画委員会

**県庁展望ロビーの改修に当たり
どのような利用を考えているのか
昼夜で異なる空間を楽しめる
コンセプトで考えている**

問 県庁二十五階の展望ロビーの改修に当たり、どのような利用を考えているのか。

答 昼は来庁したビジネスパーソンが、待ち合わせや打ち合わせなど、目的や人数に応じて利用できる空間を。夜は仕事帰りの社会人やカップルが、大人の雰囲気あふれるくつろぎの空間を、それぞれ楽しんでいただくというコンセプトで考えている。

問 県庁内保育所の設置は、働き方改革の一環として先駆的な取り組みであるが、定員や保育士数の設定の考え方は。

答 定員については、職員への利用希望調査の結果を踏まえ、最大三十人を確保しておけばニーズに応えられると考えている。保育士数については、今後開所に向けて行う入所申し込み状況を把握するとともに、保育事業者などの意見を聞きながら決定していく。

問 県北振興チャレンジプランでは、多岐にわたる施策が講じられると聞いている。多数の部局が関係してくると思うが、どのような体制でプランを推進していくのか。

答 県北振興局と各部局で構成する県北振興推進会議を開



新たな活用が期待される県庁25階の展望ロビー

催している。そうした会議の場を活用して情報共有を行うとともに、各施策の効果を検証するなど、PDCAサイクル^{※1}を回していく。

問 成田空港でもLCC専用ターミナルビルを整備するなど、LCC^{※2}の誘致に向けた取り組みを行っている。茨城空港との取り合いも心配されるが、その点について所見は。

答 茨城空港は北関東の玄関口として、また、成田空港の補完として、コンパクトで利便性の高い空港である。そうした茨城空港の良さを全てアピールして、LCCの誘致に精一杯努力したい。(ほかに、ネーミングライツの活用、移住の促進に向けた取り組みなども質問)

防災環境産業委員会

**キャッシュレス決済の推進
に向けた対応は
導入店舗や利用者の増加
に向けて取り組む**

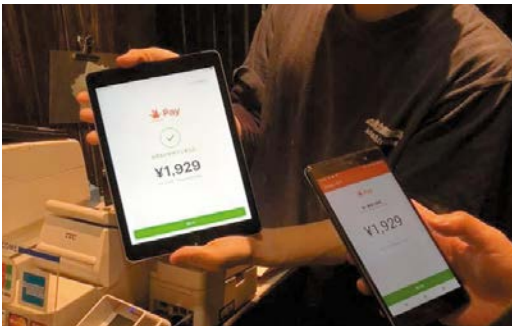
問 本県に来訪した観光客からは、キャッシュレス決済^{※3}に対応している店舗が少ないとの声がある。県内においてキャッシュレス決済が進んでいないように感じるが、その対応は。

答 中小店舗への導入促進などのため、QRコード決済^{※4}を活用した実証事業を水戸の梅まつりに合わせて実施した。今後は、決済事業者を含むさまざまな機関との連携を強化し、導入店舗と利用者の双方が増えるよう取り組んでいく。

問 霞ヶ浦流域の小規模事業者が排水基準に違反した場合の規制が、条例改正により強化される。実施に当たっては、十分な周知と丁寧な対応が必要だが、取り組みは。

答 ささまざまな方法により、制度の周知徹底を図るとともに、事業者の相談に個別に対応していく。また、施設の更新が必要な場合に備え、無利子の融資制度の新規枠を拡充し、併せて周知を図っていく。

問 アクアワールド大洗水族館について、夜間も楽しめるように整備が予定されている。大洗町や周辺市町村と連携し、入館者の増加などに取り組む



キャッシュレス決済の実証事業の様子

べきと考えるが、対応は。

答 リニューアルにより年間十万人以上の入館者数の増加を見込んでいる。大洗町や地域の商工会、観光協会のほか、周辺市町村とも連携し、誘客促進や宿泊需要の拡大を図る。

問 水害時の逃げ遅れ防止のため、県は、住民参加により防災マップなどの作成事業を行っているが、二〇一九年度に終了予定と聞いている。継続すべきと考えるが、所見は。

答 水害に対する自助、共助の意識を高め、地域および住民の避難力強化を図るため、マイ・タイムライン^{※5}などの普及啓発に努めていく。(ほかに、外国人材活躍促進事業の進め方、東海第二発電所の安全対策なども質問)

保健福祉医療委員会

**茨城県男女共同参画推進条例の改正
に当たり理解増進が重要では
二〇一九年度以降、継続して
理解増進に努める**

問 茨城県男女共同参画推進条例改正案について、性的少数者への理解を増進し、差別意識を解消するという改正目的は理解できる。一方、差別は無理解から生じるものと考えられるため、まずは差別に対する理解の増進に注力することが重要ではないか。

答 理解増進は重要と考えている。新年度予算でLGBT^{※6}に優しい県づくり事業で計上している啓発や相談体制整備を優先しながら、当事者の生活上の困難を解消する施策を幅広く検討していく。

問 犬猫殺処分頭数を減らすためには、県が主体的に団体などの連携を強化し、犬猫の譲渡会を、より大々的に行うべきではないか。

答 これまで公示していなかった犬猫の写真も公示するほか、収容頭数をさらに減らすべく入口対策に力を入れる。

問 医療的ケア児と家族の生活実態を踏まえた福祉施策の充実が求められている。茨城県医療的ケア児支援体制協議会で検討された主な支援策は。

答 協議会から小児在宅医療を支える病院の不足、医療型短期入所施設などの地域偏在、



犬猫殺処分ゼロを目指す啓発ポスター

医療的ケア児を受け入れる保育所の不足といった意見をいただき、その一部を新年度予算に反映した。今後も協議会意見を踏まえ、医療的ケア児と家族の支援につなげていく。

問 本県は小児科医師数が全国最下位とのことだが、その要因は。また、医師確保に向けて、どう取り組むのか。

答 医学部が県内に筑波大学一校しかないことが大きな要因と考えられる。今後、地域枠医師が増加する見込みなので、魅力的な研修プログラムの作成といった後期研修の充実による専攻医確保、女性医師の働きやすい環境の整備などの対策を続けていく。(ほかに、待機児童対策、保健所再編対応策なども質問)

※1【PDCAサイクル】…Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の頭文字を取ったもの。計画から改善までを一貫して行い、さらにそれを次の計画、実行に反映しようとする事業手法。
 ※2【LCC】…Low Cost Carrierの頭文字を取った略称であり、低コストかつ高頻度の運航を行うことで、低運賃の航空サービスを実現する新たなビジネスモデルを採用した航空会社のこと。
 ※3【キャッシュレス決済】…クレジットカードや電子マネーなどを用いて、現金のやりとりなしで支払いをする決済方法。